

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 横浜市立東希望が丘小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 8 「わたしたちのまちに言葉の贈り物」
単元名 (全17時間)	「わたしたちのまち」
学習のねらい	自分たちが住んでいるまちに興味、関心をもち、よりよいまちづくりに参画しようとする。 写真におさめる活動を通して、自分の感じた気持ちやお気に入りの風景を他者に伝える。
学習内容	1 希望ヶ丘のいろいろな場所を探検し、自分のお気に入りの場所の検討をつける。 2 それぞれのグループに分かれ、お気に入りの場所の写真を撮る。 3 撮った写真に言葉をつけ、おしゃれに飾る。 4 作品を展示したり、写真を見ながら発表したりして、まちのよさを伝える。
参考資料 準備品 実施場所等	・ I p a dやデジタルカメラ ・ 地図やお気に入りの場所を書き込むワークシート ・ 写真を飾る台紙や額縁 場所「旭区東希望が丘 及び 希望ヶ丘」

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1時間	学習の計画をたてる。	まちの様子の写真などを使用し、活動を具体的に想起させる。	
2時間	学校の周辺のまちたんけんをする。 自分のお気に入りの場所を見つけたら。	希望ヶ丘の商店街などにも足を運び、希望ヶ丘地区のいろいろな場所に目を向けさせる。 もともと好きな場所も候補に入れてよいことを伝える。	
6時間	グループに分かれ、お気に入りの場所の写真を撮る。	交通安全指導 事前に、学校に交流のある写真屋さんなどに依頼して、写真の撮り方のレクチャーをしてもらう。	まちのよさを伝えるために、写真の撮り方や場所などを工夫している。 【知技】
1時間	お気に入りの場所の写真を見合い、友達作品のよさを伝える。	写真の上手い下手ではなく、自分のお気に入りの場所を伝えたい想	

	え合う。	いを尊重する。	
2時間	友達にもらったよさの言葉を参考にしながら、写真に言葉をつけて、おしゃれに飾る。	国語の学習を通して、言葉の言い回しや工夫ができるようにする。図工の学習を通して、自分の気持ちを表現できるような作品展示の方法を指導する。	伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。【思判表】
4時間	作品を展示したり、発表をしたりして、まちのよさを伝える。	校内外への呼びかけや発表の仕方の指導をする。自分の気持ちを素直に表現できるよう支援する。	
1時間	学習のふり返り まちのよさをもっと知るためにはどうしたらよいかを考える。 ↓ 以後、地域の人や商店街の人と交流し、まちを活性化させるプロジェクトを立ちあげる。	学習を通して身に付いた力を価値づける。 まちについて知ったことを、もっと発信するための方法を適宜提示する。 地域の人との連絡・相談	地域の一員であることを自覚し、まちのよさを考えて積極的に関わろうとしている。【主】

<留意点>

まちのお気に入りの写真を撮って、伝えようとする思いを大切にします。

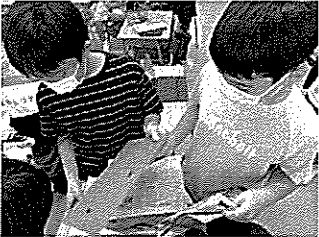

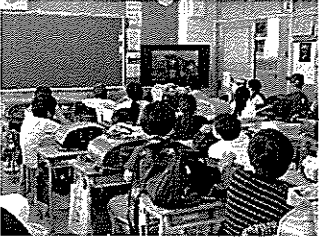
交通安全や著作権などのルールについてきちんと指導をする。

この活動で終わりにするのではなく、興味をもったまちを、さらに活性化させるために自分たちができることはないかを考えさせ、次につなげる。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立東希望が丘小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1時間	教室	まちの様子の写真などを使用し、活動を具体的に想起させる。		お気に入りの写真を伝えたいという気持ちがあった。
2時間	地域	まちたんけんを通して、みんなに伝えたいお		「写真を使ったらよいのでは。」と

		気に入りの場所を考える。		いう意見があった。 。
6時間	地域	グループに分かれ、お気に入りの場所の写真を撮る。		もっと上手に撮るにはどうしたらいいんだろう。
	学校内	担任と交流のあるカメラマンを講師に呼び、写真を撮るときのコツを教わる。		
	地域	再び、グループに分かれ、お気に入りの場所の写真を撮る。		カメラマンに教わった技を生かして撮ってみよう。
3時間	教室	お気に入りの場所の写真を見合い、友達の作品のよさを伝え合う。 友達にもらったよさの言葉を参考にしながら、写真に言葉をつけて、おしゃれに飾る。		どんな言葉を使おうか。 国語で習った詩の表現の仕方を取り入れてみよう。
4時間	学校内	作品を展示したり、発表をしたりして、まちのよさを伝える。 グループに分かれて、展示の仕方や宣伝ポスターや動画について相談しながら進める。	 	どんな宣伝をしたらみんなが見てくれるのかな。 見やすく飾るには、どうしたらいいかな。
1時間	教室	学習のふり返り まちのよさをもっと知るためにはどうしたらよいかを考える。		お気に入りの場所だけじゃなくて、もっと広い範囲で調べてみたい。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・「みんなにお気に入りの場所を伝えたい」という思いを大切に、活動していく中でも頻りに立ち返るようにした。伝えるためには、どのような写真を撮ったらよいか。どのように展示したら見てもらえるか。などと、目標を念頭に置いた上で活動することができた。
- ・プロのカメラマンと担任が交流があったため、お願いをして来校してもらった。そのカメラマンは初めての児童への指導であったが、児童に困り感や分かりやすい指導の仕方について事前に共有をしていたため、講義や実践において児童の満足度が高かった。また、プロの写真を見て、自分たちの写真にその技法を取り入れている児童もいた。
- ・展示をして終わりではなく、見た人から反応がもらえるようにした。自分たちの活動を他者から評価してもらえたことで、自己有用感が高まっていた。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・展示の仕方や宣伝の仕方をグループごとに考えたが、グループによっては上手くいかないこともあり試行錯誤した時間が多かった。
- ・撮影して展示することだけが目標だととらえている児童がいた。都度、全体に対して目標を伝えていった。
- ・短期間で集中して活動するための時間や場所を確保できず、学習が飛び飛びになってしまったのが残念だった。学校内の展示場所の確保や授業時間、行事等の兼ね合いを十分に考えておく必要があった。

(3) 児童の反応

- ・6月に一人一台のipadが導入され、とにかく使いたくて仕方がない児童だったので、今回の写真を撮る活動では思う存分に使うことができた。
- ・普段は行くことのない場所や、友達のお気に入りの場所を知って、地域のよさをさらに感じているようだった。児童の中には、「写真を見て、今度行ってみようと思った。」と答える子もいた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

年度初め、クラスでの総合的な学習の時間にどの教材を用いるかを悩んでいた。今回のプログラムを見て、学習の流れが想像できたため応募するに至った。初めはプログラム例通りにと考えていたが、徐々に児童の気持ちも盛り上がり、新しいアイデアを膨らませたり次につながる活動を考えたりすることができて、結果的にクラス独自の活動となった。総合的な学習の時間の取り扱いについて身構えていたが、教師自身も安心して楽しく取り組むことができた。

(5) 今後の課題と取り組み (児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

今回はプログラムの枠の中からであったが、この活動を通してもっと自分たちの地域に目を向けて、活動を充実させてほしいと考えている。最初の取っ掛かりとして、教師が「こんなことをやってみよう！」と発案することも必要であると感じた。児童は経験も少なく、新しいものを生み出そうとする思考もそれぞれ異なっているためである。

プログラムを選ぶときに、どのような活動を取り入れていくかを児童の実態に合わせて考え、方向性などもある程度教師側が作成しておくことで、より充実した活動になると思った。

。